

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（エリア担当）	・乗客数の伸びが大きく、たばこに引っ張られて、食品の売上も伸びている。現在の良い状態がしばらく続く。
		家電量販店（店員）	・今月は特に悪いが、北京オリンピックも追い風になり、ボーナス時期にもなるので、良くなる。
	やや良くなる	コンビニ（エリア担当）	・当地区では最大の大型店舗の開店を控えており、競争は激化するが、売上はしっかり確保できる。周囲の店舗の売上減は多少見込まれるが、その減少分の売上もしっかりとカバーできる。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこをコンビニで購入する客は今後も多く、売上のアップが望める。
		コンビニ（エリア担当）	・コンビニでたばこがある店では、今後も来客数の増加が見込まれる。ついで買いというような状況も見受けられ、商品の品ぞろえをしっかりとすれば、今後の売上アップにつながる。
		家電量販店（店長）	・北京オリンピックも間近になり、地上デジタル放送対応のテレビの購入が加速する。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・原材料の高騰でやむなく値上げを予定しているが、この時期の多少の値上げに大きな反発は出ない。
		タクシー運転手	・この先3か月くらいを見ると、今後、松江市の開府400年祭やNHKの朝の連続テレビドラマの取材・撮影・ロケ等入ってくるので、人の動きに合わせて我々の業界もこの先良くなる。
		通信会社（販売企画担当）	・6月からの新商品発売、夏のボーナス需要等により市場が活性化される。
		美容室（経営者）	・新店舗のオープンが6月にあり、それで多少は回復できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街への新規店舗開店の相談も無く、街としての変化が無いので今後良い方向へと向かう様子がない。現状維持が精一杯である。
		商店街（代表者）	・隣の市のまた隣に、大規模商業施設が開業した。土・日の度に、客は買物をしなくても見学に行ってしまう状況は続く。
		百貨店（営業担当）	・保険料や食料品値上げなど、婦人服の主力ターゲットであるミセスやシルバーへの影響が大きく、消費の回復が望めない。
		百貨店（営業担当）	・この先2～3か月で大きく売上が回復するような、リニューアルや企画などはない。
百貨店（販売促進担当）		・今後、中元、セールと大きな商戦が続くがギフトについては早期割引への傾斜が強まると思われ、新規顧客が増えなければ総額はマイナスになる見込みである。またセールについても取引先の減産が厳しくなり適品確保が難しく、いずれも大きな期待はかけられない。	
百貨店（販売促進担当）		・販売の落ち込みは、周辺他店舗も同様の様子であり、原因がつかめない。食品、ガソリン等の値上げの影響で、洋服、外食にまわる金を切り詰めているのなら、当分この状況は変わらない。	
百貨店（売場担当）		・景気の上昇の兆しが見受けられないのと、原油や原材料の高騰により物価が上昇して暮らしにくくなっており、特に地方では先が見えてこない。	
百貨店（販売担当）		・物価高やガソリンの高騰、可処分所得の減少など、先行きの不安の方が大きく、購買意欲が上がる要素が全くない。	
スーパー（店長）		・ここ1年間くらい客についての購買動向は変わっていないので、今後も同じような状況で推移する。ただし、商品の値上げが続き、客の動きが鈍るのではないかと懸念される。	
コンビニ（エリア担当）		・競合や異業種の出店が鈍化してきているが、市場は成熟状態にあるので、3か月後も変わらず推移する。来客数から見ても大きな変動はなく、財布のひもは固くなっている。	
衣料品専門店（地域ブロック長）		・今後も気温が不安定で、売上の見通しが立たない。夏物の動きが不安定になっている。	
家電量販店（店長）		・オリンピック需要が見込まれる薄型テレビは好調を維持するものと思われるが、ガソリンを始め諸物価の値上がりにより他の大型商品の需要増が見込めない。	

	乗用車販売店（営業担当）	・販売台数の維持が大変困難な状況が続く。今後は既納客のしっかりとした守り切りから、台替えを含めた色々な成果を求めていく努力を強化し、併せて潜在客を、いかに掘り起こし拠点へ誘引していくかが大きなかぎとなっていく。
	その他専門店〔カメラ〕（店長）	・地域経済状況や物価高を反映して、必需品ではない商品の需要が減る傾向がますます強まる。
	高級レストラン（スタッフ）	・予約の状況は前年並みで、景気が上向きかどうかはわからない。
	一般レストラン（経営者）	・原料は値上がりしているが、まだしばらくは値上げをせずにやっていけそうである。
	タクシー運転手	・今月は特需的なものがあったが、日々の売上は落ち込んでおり、これをカバーできたかどうかぎりぎりの状態である。今後、特需的なものがあったとしても、全体的な売上や来客数を押し上げることは難しい。
	通信会社（企画担当）	・客の様々なものに対して「控える」傾向が2～3か月中に改善される要素が現在ない。
	通信会社（総務担当）	・競合他社の攻勢等により、厳しい状況が続く。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・高齢者の医療制度の見直し等、客は将来に対して不安を抱いている。将来に対して、増税の実施も含めた閉塞感を持っており、消費を減らして貯蓄にまわそうしている。この閉塞感が解消されない限り、購買には結びつかない。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	・周辺のムードが非常に悪い。このような時にまた倒産でも起きると、更に悪くなる。最近、様々な団体の総会に出席するが、総会でのムードも沈んでおり、打開の道筋が見えない。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	・今後も原油高騰・小麦・鉄鋼などの値上がりが予想され、販売価格に転嫁されれば、先々についても好転材料がない。5月の状況が厳しすぎてよくなる気配は感じられない。
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	・大企業からはいつもと変わらぬ注文があり、まだ元気なようだが、個人及び中小企業からの注文が大変少なくなっている。また、備品専門店から、客のゴム印注文に際し、少しでも利益を確保したいので見積もってくれという話があり、どこも厳しい経営状態が続くと見ていることを実感した。
	百貨店（売場担当）	・関東に拠点を置く大手婦人靴の間屋が倒産し、地方百貨店の商品確保が困難になってきている。都心部では商品確保ができていようだが、地方では難しく、8月以降、昨年のような残暑が続くと商品が完全にショートしてしまい、客への十分な商品供給ができず売上が苦戦する。
	百貨店（売場担当）	・来月、当地域としては久々の大型郊外商業施設が近隣にオープンする。業態が違うため決定的なダメージはないと思われるが、当面の間は集客面で苦戦する。
	百貨店（購買担当）	・今後の客の動向として、「購入したいのだけれども、生活必需品にお金が掛かるので、衣料までは手がまわらない」となる見通しである。よほど客にメリットのある情報でも流れないと、2～3か月先の客の購買意欲改善の見通しは立たない。
	スーパー（店長）	・原油高によるガソリンや関連商品、また6月以降にもまだまだ値上げが予想され、消費が伸びるような動きは全く見受けられない。
	スーパー（店長）	・食料品の値上げが相次ぎ、客の買い控えが目立つ。単価の安い商品にしか動きがなく、景気としては良い材料が見当たらない。
	スーパー（店長）	・原油・小麦粉等、原材料の高騰が徐々にではあるが、値上げという形で商品単価に反映されてきているので、これから先消費はますます落ち込む。
	スーパー（店長）	・明るい情報がなく、ガソリンの値上げ、物価の上昇などを考えると今後も更に悪くなる。
	スーパー（総務担当）	・節約で、中の下あたりの商品が動いている。今後一層その傾向が増え、買上点数がそのまま売上は減少する。
	スーパー（経営企画）	・食料品の価格上昇は今後も続く。さらにガソリンの値上がりに加え諸々の物価上昇が続くものと思われ、生活防衛の消費スタイルは今後も続く。
	スーパー（販売担当）	・お中元の時期を迎え売上が伸びることを期待したいが、商品の値上げが相次ぎ、内容や価格等に不安があるのでやや悪くなる。
	乗用車販売店（経営者）	・明るいニュースは全くなく、原油高は続き個人消費はますます冷え込む。
	乗用車販売店（店長）	・日用品の物価高騰で買い控えがまん延し、特に高額車については、販売が難しい状況が続く。

乗用車販売店（統括）	・物価、ガソリン等の値上げなどにより、より厳しい状況となる。	
乗用車販売店（販売担当）	・現在は新商品の効果が出ているが、その効果も次第に薄れてくる。	
自動車備品販売店（経営者）	・諸物価の高騰とガソリン価格の更なる値上げが予想され、車関連の支出は低調に推移する。	
その他小売（営業担当）	・生活必需品ではないため、世の中の値上げ等の風評が広がれば、購買意欲が減少する。	
一般レストラン（店長）	・外食は、客にとってもぜいたくの一環であり、客の来店頻度が減少しているのを痛烈に感じ、回復するとは思えない。	
一般レストラン（店長）	・原油高に歯止めが掛からないこと、食品等に対する悪いニュースが流れるので、来客数増につながる要因が見当たらない。	
スナック（経営者）	・我々の業界の知り合いは、店主がみな70歳過ぎで、閉店が相次いでいる。新規客の開拓もままならず、大変厳しい状態が続く。	
都市型ホテル（スタッフ）	・原油高は、マイカーでの旅行者減少に大きく影響を与えている。	
都市型ホテル（総務担当）	・原材料の高騰がどこまで続くのか見えない状況にある。先が見えない景気状況のなかでは、プラス材料を探すのは困難で、一般宴会等の受注も低調、客単価自体も上がってこない。この状況が続く。	
タクシー運転手	・運賃値上げでタクシーの売上を増加させようとしたが、その結果は芳しくなく、値上げに踏み切らなかった会社は値上げできなさそうである。また、介護保険の制度が厳しくなり、障害者やその家族から、タクシーの利用を控えているという声をたくさん聞き、厳しい状態が続く。	
通信会社（社員）	・様々な物の値上がりなどにより、通信サービスなどの費用を削減しようとする動きが予想される。	
通信会社（通信事業担当）	・通常であれば、転入などが落ち着き、新規加入が増える時期ではあるが、反応は非常に鈍く、状況はしばらく変わりそうにない。	
テーマパーク（財務担当）	・ガソリンの値上げに連動して物価が高くなってきており、仕入れ等への影響も考慮すると今以上に厳しさが増す。	
テーマパーク（業務担当）	・来月以降も続く原油高は、来客の9割以上がマイカー利用の当施設にとって、マイナスの要因にはなってもプラスの要因とはなり得ない。	
ゴルフ場（営業担当）	・今後は、より近郊のゴルフ場の料金が下がるおそれがあるため、影響を受けるおそれがある。	
美容室（経営者）	・同業者の間でも値下げ競争になり、単価が下がり、売上が下がるといふ悪循環になっている。	
設計事務所（経営者）	・受注活動の増加に反比例するように、顧客の購買状況や実質収入は減少傾向にある。	
設計事務所（経営者）	・現在忙しんでいる官庁の物件が終わった後は、民間からの発注もしばらく期待できない。	
設計事務所（経営者）	・建設物価の高騰は更に続くという見方が、あらゆる建築業種でも言われている。プロジェクトの事業計画が更に成り立ちにくくなる。	
住宅販売会社（従業員）	・来客数、受注単価の減少が進んでいるが、原価の方は上昇してきている。	
住宅販売会社（販売担当）	・ゴールデンウィークのイベント来客数が前年比15%減で今後の受注に影響しそうである。また客は景気の減速感により、購入に慎重である。	
悪くなる	商店街（代表者）	・石油価格も上がり、諸物価も引き続き上がるが、所得は伸びず売上が増える要素が見当たらない。
	スーパー（財務担当）	・競争の激化及び仕入れ価格の上昇により、利益率の低下が予想される。
	コンビニ（エリア担当）	・ガソリンはもちろんのこと、食品も値上がりが続いているので、良くなる要因が全く見当たらない。
	衣料品専門店（経営者）	・メーカーの話、同業者の話、商店街の通行量、どれをとっても良くなる兆しが無い。
	衣料品専門店（販売促進担当）	・夏のボーナス減や、景気下降のあおりで財布のひもが固い人が増えている。衣食住のうち、衣食に関しては無駄金を使わない人が多く見られるため、これから更に厳しさを増す。
	家電量販店（店長）	・物価の上昇が続き、客が先行きに不透明感を抱いている。それに伴い成約数も落ち、先行き不透明である。
	その他専門店〔布地〕（経営者）	・諸物価の値上がり、政治も安定しないため、これからも客に消費意欲がわからない。

		観光型ホテル（経理総務担当）	・値上げラッシュによる生活防衛で旅行や外食は控えられ、特にガソリンの値上げは旅行への意欲を減退させる。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・生産量の増加が続くことと、新製品の立ち上がりにより売上増となる。
		金融業（業界情報担当）	・米国経済は減速しているが、欧州・アジア圏では引き続き堅調で、当面は高水準の受注を維持する。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・秋口まで大口の生産が無く、現在の生産量で推移する。原料価格の高騰が続いており、収益面が厳しくなっている。
		鉄鋼業（総務担当）	・世界規模での極めておう盛な鉄鋼需要を背景に、特にアジア方面の需要の高まりから粗鋼生産量は引き続き堅調に推移する。しかしながら、原料価格の過去に例を見ない大幅な上昇が見込まれており、鋼材価格改定の状況によっては、収益面に影響が出る。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・長期にわたり国内市場の悪化が続いており、売上については厳しい状況が当面続く。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・ボーナス商戦の受注も弱含みで、部材メーカーからは強気の話は聞こえてこない。
		通信業（部門長）	・原油価格の高騰に歯止めがかかる要素は無く、市場の活性化は望めない。しかし、通信業界においてはコスト削減のための提案ができることから、営業に及ぼす影響は少ない。
		通信業（営業企画担当）	・諸物価上昇のなかで現在の通信サービス価格は底値に近いが、新たな通信インフラ（NGN）の進展などについて顧客の様子見傾向が今しばらくは継続し、通信業界にとっては需要増の期待材料が見当たらない。
		やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）
	繊維工業（統括担当）		・原油を中心とした原材料の値上がりが続くこと、また、四川大地震、ミャンマーのサイクロン、日本政治の停滞感等、明るい材料は見当たらない。
化学工業（総務担当）	・原材料費の高騰が大いに影響するようになってきている。		
金属製品製造業（総務担当）	・鉄原材料価格の動向をみて、半年ごとに得意先と価格交渉を行っているが、今年に入り鉄原料価格が想定以上に急上昇し、半年先である9月を待たずに値上げを要請しなければならない。得意先がどの程度認めてくれるかは不明だが、厳しい交渉となる。		
輸送用機械器具製造業（総務担当）	・今後も受注量・生産高共に横ばいの状況が続くと思われるが、原材料価格の高騰に加え、6月からは石油製品の一律値上げや人件費特に税金の負担増、為替の動向など不透明な要因を抱えており、先行きが非常に懸念される。		
その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・最近また倒産の話をよく聞く。消費材の値上げやガソリン・重油の値上げまた電力料の値上げで特に中小企業は非常に厳しい立場に立たされている。もともと日本で作ったものは値段が高い点で不利であり、そのため製品への価格転嫁を難しくさせている。		
輸送業（統括）	・燃料費の高騰が続く限り、景気は良くなるらない。		
金融業（営業担当）	・物の値段が上がってくることが問題である。例えばケーキ屋では、材料費のチーズが2倍、チョコレートは60%、小麦粉類が30%の値上がりで、包装紙材も5%の値上がりである。運送業では、トラック20台程度所有の企業では、ガソリン代の高騰で月間100万円以上の燃料代が掛かる。こういったことが今後、収益を直撃する。		
	会計事務所（職員）	・コストアップの額自体はささいなものだが、結果を見ると業績悪化の大きな影響となっている。それに加え、受注単価の引き下げ要求が今後ますます厳しくなる。	
	悪くなる	コピーサービス業（管理担当）	・我々の業界は以前から景気は悪く、最近の景気後退感を受けて、更に業績悪化が進行する。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		求人情報誌製作会社（支社長）	・新卒採用でいったん止まった中途採用が動き出し、募集広告などが増えてきている。採用後の人の動きで、小さいながら消費が動き出す。
		求人情報誌製作会社（担当者）	・引き続き秋口までの合同説明会の問い合わせが増えていく。
	変わらない	人材派遣会社（担当者）	・求人数の状況から見ると、こここのところ数か月は停滞したままで改善の見通しが立たない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人数については前年とあまり変化がないが、雇用形態については派遣・委託・臨時等の求人が増加傾向にある。
やや悪くなる		人材派遣会社（支店長）	・派遣終了の話が増加しつつある。

	職業安定所（職員）	・原油価格高等の影響で軒並み材料費が上がるなか、即販売価格に転嫁するのは難しい状況もあり、今後の対応に頭を悩ませている企業が数多くあり、結果として求人意欲が冷え込みつつある。
	職業安定所（雇用開発担当）	・規模別に見ても、また、産業別に見ても企業の求人意欲が減退している。
	民間職業紹介機関（職員）	・求人依頼件数が来月も伸び悩む結果となれば、3か月後の景気にも影響を及ぼし、現状より更に悪くなる。地場上場企業の決算報告でも明らかなように減益企業が目立ち、低空飛行を余儀なくされる。
	民間職業紹介機関（職員）	・求人は継続しているが、即戦力を求める傾向が特に強くなり、採用のハードルが高くなってきているので、正社員の雇用増に結びつかない。
悪くなる		